

テーマ 「豊かな学びで個を育むための教科指導」について ～学び合い、高め合う活動をめざして～

1. テーマ設定の理由

変化の激しい社会においては、生活を通して自発的・主体的に学んでいける能力が必要である。そのため保健体育の授業では、生涯スポーツに結びつけるための「学び方」を身につけさせることが大切であると考え、取り組みを行っている。また、集団的な種目はもちろん、個人的な種目であっても、他者との関わり合いがなければ成立し得ない教科であるために、それぞれが持っている能力や個性を互いに認め合いながら、自分の周りにいる仲間とともに学び合う事が、どの教科よりも必要とされる。そのため一人ひとりが、自分の能力や個性を理解した上で、自分の課題を持ち、その課題を解決するための手だてを、資料などから選び考え、練習計画を立て、教具や場の工夫をしながら仲間とともに学び合えるスタイルで授業を進めている。そして、課題解決のための手だてや、教え合いや助け合い、声の掛け合いや励まし合いなどを通してコミュニケーションする大切さや、共に学び合う場を共有する喜びも味わっている。また、学びを振り返る自己評価能力や他者評価をうけた上での自己総合評価力などをつけることができるようになってきている。そしてそれぞれの生徒が自分なりの運動やスポーツに対する関わり方を見だし、自分の成長を実感することが出来るようになってきているように見られる。さらに一人ひとりが、自分の目標に合った運動を、その適正に合わせて楽しもうとする姿勢や、積極的に運動・スポーツにかかわろうとする姿勢が見え始めており、取り組みが生徒の中に浸透してきているものと考えている。

保健体育科における学びの拓きとは、「日々の授業の中で自分なりの運動やスポーツへの関わり方を見出し、そして自分の成長を実感し、仲間存在に気づきながら、運動やスポーツの楽しさに触れ、さらに高い目標を設定し、新たな関わりを求めていく」つまり、毎時間の授業の中で、スモールステップの積み重ねがさらに次のステップに発展させるための学びを拓くと考えている。このサイクルが保健体育科での学習スタイルである。

昨年度より、本校の研究課題は「豊かな学びで個を育む」～追究し発信する力の育成～と題し、「個性を拓く学び」、「社会につなぐ学び」、そして「世界と結ぶ学び」の3つの視点で研究を進めている。

保健体育科では昨年と同じく、他者と関わりながら、1人ひとりの個性や能力を大切にしながら、自分や班の課題を設定し、その課題を解決するための取り組み、つまり「個性を拓く学び」と、他者と共通の規範意識を身につけ、周囲の人々と協調しながら学校行事につながる活動を組み込んだり、さらに行事を自分たちで企画、運営することができる「社会につなぐ学び」を中心に研究を進めている。

特に今年度は、少人数グループでの教え合いや励まし合いなどの学び合いや、お互いのよさや頑張りを認め合い、さらに高い課題を持ち、学びを高めあうことができるようにと願い、「学び合い、高めあう活動をめざして」を副題に取り入れ、さらに研究を深めたいと考えている。

2. 本年度の研究について

保健体育科では、ずっと以前より課題解決型の学習として「めあて学習」や「選択制授業」を取り入れて、生徒の運動欲求を満たすことや、多様な個人的特性を生かして主体的な運動実践力を育てようと工夫してきた。しかし、さらに追究するためには、子どもたちがそれぞれの自分の力に合い、なおかつ楽しめる内容として取り組むことができれば、学習が自発的で、積極的になり、活動が活発になる。そして、どんな困難にも立ち向かい、挑戦し、学習を深められ、豊かになってくると考えている。学習する子どもたちは多様で、技能レベル、意欲や態度、経験なども異なり、単一ではない。子ども達が運動の機能的特性に触れながら学習していくためには、学習する子どもたちにとってその運動はどんな特性を持っているのか、どこに魅力を感じ、どこが嫌いなのか、どんな楽しみ方を知っているのか、技能はどうか等を考え、運動種目を見なければならぬ。そこで、事前アンケートをていねいにとり、子どもたちの実態を把握するとともに、学習計画を組む上で、基礎・基本をきちんと押さえながら学び合う、習得型の場面と、そこから発展した学習の探究型の場面、さらにそれぞれがスパイラルに組み合わせられて、更に高め合えるよう

な学習場面などを意図的に組み込んだ授業を考えてきた。また、本年度は特に、研究内容として、全教科少人数の班で学び合うという授業スタイルを取り入れることとなっている。この少人数班での学習により、今まで以上に教え合いや励まし合いが行われやすくなり、コミュニケーション能力が高まり、さらに高い学び合いが行われると考える。

今年度は、個人的な種目である「器械運動」の単元を、学級の4人グループの学習形態を使い、お互いを高め合いながら、運動を楽しむような新たな取り組みに挑んでみることにした。また、本来、必修体育では同学年集団での学習が中心で、選択体育においては異学年での教え合いスタイルの授業形態はあったが、あえて、今回今までとは違った、学年のワクを取った集団での学びとして、異学年（1年生と3年生）による球技の取り組みを考えた。この球技の取り組みは上級生が下級生に教えるという新たな試みであり、このことにより、上級生が今までに学び取った知識や技能など身につけているものすべてを、自分たちが下級生に教えることで、より基礎・基本をもう一度意識し、自信をつけ、さらに異学年合同校内球技大会という新しい形の校内行事への企画を行う計画もしている。それらの取り組みを実践することで「個性を拓く学び」や「社会につなぐ学び」が、さらに大きく身につけ、豊かな学びへとひろがり、追究し発信する力が蓄えられると考えている。

3. 成果と課題

今回、研究内容として少人数班で学び合う授業スタイルを取り入れるにあたり、個人的な種目である器械運動を小集団を使った授業に組み替えることは、授業形態や、授業内容を考えるにあたりとても工夫を要することであった。器械運動の特性を失わず、単元の終わりまで自己の課題や班での課題を追究しながら、自分たちのつまづきや成果を他班に発信しつつ、さらに高い課題を追究しながら進められるかであった。器械運動は個人の課題や課題を達成させるための場の工夫、補助などの支援をしあい、少しでも出来る喜びや達成感を味わいながら、さらに難度の高い技の完成をめざしていく、つまりスモールステップを大切に積み上げていく単元である。そこで集団的な種目として考えるにあたり、今までなされている集団マットや集団跳び箱のようにすべてがシンクロではなく、個の特性もいかせる場面をとりいれられるような、シンクロの部分とソロの部分で構成し、また、マット運動か跳び箱運動を個人選択した上でマット運動と跳び箱運動を組み合わせるといふ、まったく新しい4人の生活班を使った器械運動を実践した。個人で選択したものを組み合わせ班の作品に仕上げるためには、話し合いの場面や取り決めごとがたくさんあった。4人という少人数であったため自分の個性や能力を踏まえた前向きな話し合いがなされ、また4人の協同作品に仕上げるための工夫が随所に現れるという大きな成果を得た。授業内容としては、学びが高まり深まるために、意図的に3段階で計画した。それぞれに段階を踏んでいくに従い、自分→班・班→自分、自分の班→他班・他班→自分の班→自分、自分の班とペア班→自分というふうにより学びが大きくふくらんできちんと自分に返ってきている様子が見られ、自分や自分たちの課題を追究し、発信することにより豊かな学びへとひろがりをみせた。

また、必修体育としては初めての異学年協同球技においても大きな成果を得ることができた。3年生がリーダーとなって学び合うことはもちろんだが、1年生がリーダーやコーチとなって3年生を引っ張る場面があったり、3年生の暖かい指導のもと、1年生が萎縮することなく3年生とともに学び合っていたこと。さらに、自分たちのつまづきや悩みや、また自分たちだけでは解決しにくい課題を、大学のクラブチームに所属する大学生に発信し、技術面や戦術を学ぶという、大きな発信から大きな学びを得ることもできた。そして、なによりも大きな成果は、単元終了後1年生と3年生で行われた合同球技大会である。球技大会用のルール作りや賞状作りなどの企画から、準備や当日の審判の運営にいたるまで、全て生徒達の実行委員の手による球技大会であった。このことにより今まで以上に学年やクラス、そしてブロック（1Aと3Aなど兄弟クラス）の絆がより高まった。この単元の大きなまとめとして行った球技大会により、一人ひとりや先輩の良さを今まで以上に知り合える「個性を拓く学び」はもちろん、大きな行事を自分たちの手で企画出来たことの自信が「社会につなぐ学び」に繋がり、社会にでても地域のスポーツイベントなどを企画したり、スポーツに関わりながら生活していける基礎が培われたと自負している。今回の体育科の2つの授業提案は、かなり思い切った斬新な授業であり、附属ならではの部分もあるかとは思われるが、いずれせよ、一人ひとりを大切にしながら、生涯何らかの形でスポーツに関わりながら豊かに生きて欲しいという願いをもちながら挑戦した授業であり、それぞれに豊かな学びが広がったと考えている。

実践1 必修教科2年生

授業者 吉田真理

① 題材 器械運動（マット運動・跳び箱運動のどちらか選択）

② 題材について

前年度マット運動と跳び箱運動を必修で行い、場の工夫や補助をつけながらもマット運動では倒立前転、跳び箱運動では台上前転が出来るようになり、基礎の学び（習得サイクル）ができています。

また、それぞれに自分のやれそうな技や、やってみたい技に挑戦することにより、お互いに教え合いや励まし合いを通し、さらに発展した学び合い（習得サイクル）をしながら、それぞれに達成感を味わうことができた。そして仲間との協力や分割写真を利用した学び合いの場を持つことで、自分の課題を解決することはもちろん、自分の選んでいない技に対しても技の構造や練習方法、場の工夫などを学び合う事ができ、器械運動の楽しさを味わうことができています。

今年度は、自分の能力を意識し、自分にあった課題を見つけるためにも、マット運動か跳び箱運動のどちらかを選択させ、今できている技をさらにダイナミックに美しく見えるように組み合わせたり、より難度の高い技に挑戦することで、逆さまになる感覚や体をしめる感覚を今まで以上に味わわせたいと考えた。また、本来器械運動は個人的な達成型の種目であるが、仲間とともに活動したり、演技する楽しさや自分や仲間の身体にも気づき、お互いの個性や温もりを直に感じてもらいたいという願いから、班ごとの小集団による器械運動の取り組みを行うこととした。

そして、まとめの発表会を班での対抗戦にさせること、つまり競争型で班ごとに得点を競わせることで、技の組み合わせや、構成などを工夫するための班内での教え合いや助け合い、学び合いがより重要であることに気づかせたい。そのためには、昨年学んでいる基本をもう一度しっかりと確認しながら、個人の技や組み合わせの技を、習得型の授業できちんと押さえ、班での組み合わせ技に発展させるような探究型の授業を組みたいと考えている。今までの個人での器械運動とは違い、班で活動させることで、自分の課題達成だけでなく、班得点をあげるために、技がなかなかできずにつまづいている仲間を助け合いながら器械運動を楽しむことができたり、また技能の高まりだけではなく、仲間との暗黙の呼吸で技を合すことや、仲間や自分の身体に対する感覚や意識、技の構造や仕組みをよりつかむことができるのではないかと考えた。

そこで、班での演技については、A群、B群、C群（別紙資料）よりそれぞれ条件に合った技を選び、人数や方向、高さなどを工夫し、組み合わせ、班独自の構成を考え演技することにより、班での器械運動を楽しませたいと思っている。

また、本来マット運動と跳び箱運動とはまったく違う種目であるが、一人ひとりの個性や能力をより大切にしたいという願いを持ち、今回は跳び箱運動、マット運動という種目にこだわらず、班で跳び箱とマットの合同班や、マットだけ、跳び箱だけの班があっても、班作品としての構成をさせたいと考えている。

そして、班については特別班を組むのではなく、一人ひとりの個性を大切にしながら、それぞれの課題解決を班全員で協力し合うことにより、さらに班で支え合い、学び合う大切さを味わわせたいと考え、これまでと同じように学級の生活班を学習班と置き換え取り組んだ。

また、自分たちの班だけではなく、他班からのアドバイスをしあえるような学び合いの場も大切にしながら、お互いに高め合えるような学びの場にしたいと思っている。

今回、従来の「達成型」の器械運動に、新たに「競争型」を取り入れることにより、生徒の関心・意欲をより高め、少人数班活動を通して豊かな学びを拓く糸口としたいと願っている。

③ 学習目標と評価規準

<p>学習の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・逆さまになったり、身体をしめる感覚を身につけ、自分や班の課題に向けて練習を工夫することにより課題解決能力をつける。 ・各自の個性を認め合いながら、条件に合った技を選び、班での練習により、できないことができるようになることで達成感を感じる。 ・互いに協力し合い、技のポイントや構成などアドバイスしあいながら技の向上と、呼吸を合わせて演技することを楽しむ。 ・班内で安全に留意しながら、発表会に向けての工夫ができるようにする。
<p>評価規準</p>	

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・特性に興味を持ち、進んで楽しもうとする。 ・安全に留意して、意欲的に練習しようとする。 ・班員と気持ちを合わせ、根気強く練習したり、互いにアドバイスや補助をしながら励まし合って練習しようとする。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の個性を踏まえ、条件に合った班の技を組み立て、練習計画が立てられる。 ・技のできばえを確かめあいながら、課題を持って練習し、班員と合わせる工夫ができる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・条件に合う班で決めた技ができる。 ・自分の身体や班員の身体の動きを意識しながら運動することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・特性を捉え、器械運動の意義や技のポイントや練習の仕方や、技の構成方法がわかる。

④ 学習計画（13時間／16時間）

はじめ 1～3時間	なか 4～13時間	まとめ 14～15時間
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 学習のねらい、単元の見通しや学習の進め方などを理解する。 ・自分の今できる技や出来そうな技の確認を行う。 ・マットか跳び箱の選択を行う 	<div>ねらい1 各自の能力や個性を認め合い、班で条件に合う技を選び、互いに協力して技の練習を行う。</div> <div>ねらい2 班作品にするための取り組みや構成を考え、班での演技の完成・達成に向けて見通しを持って取り組み、技の練習を行う。</div> <div>ねらい3 班演技を他班と見せ合い、お互いにアドバイスし合いながら、発表会に向けた練習ができるようにする。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会を行い、学習の成果を確認しあう。 ・単元のまとめを行う。

	学 習 活 動	学 習 の 中 心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	観点
はじめ 1 ― 3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・自分の技の確認 ・種目選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の特性、学習のねらいや道すじを知り、学習の見通しを持つ。 ・個人の器械運動と班での器械運動の違いや良さ、構成の仕方について理解する。 ・今出来る技や出来そうな技を洗い出す。 ・マットか跳び箱かどちらかを選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の特性や学習のねらい、道すじを理解させ、学習の進め方について説明する 「習得」 ・器械運動が常に命の安全と背中合わせであることを理解させる 「習得」 ・ビデオを見て集団演技の美しさを知らせる。 「習得」 ・マットや跳び箱のセッティング、片付け方をもう一度確認し、安全に気を付ける姿勢を確認させる。 「習得」 ・構成のポイントや技の選び方などを理解させる。 「習得」 ・A群、B群、C群の技の中から、今自分が出来る技や、練習すれば出来そうな技を整理させる。 「習得」 ・自分の能力や個性を考え、どちらの種目を学習していくか、選択させる。 「習得」 	<div>[関]</div> <div>[思]</div> <div>[知]</div> <div>[技]</div>
な	<div>ねらい1 各自の能力や個性を認め合い、班で条件に合う技を選び、互いに協力して技の練習を行う。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・班で決めた技を各自の課題に基づいて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で場の工夫や補助、アドバイスをしあいながら練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で協力しながら、選択した技を、課題解決のために粘り強く取り組めるように支援する。「習得」「探究」 ・場の工夫や補助の仕方など、資料を見て自分達で助け合えるようにアドバイスする。 「習得」「探究」 	<div>[関]</div> <div>[思]</div> <div>[知]</div> <div>[技]</div>

か 4 14時間	ねらい2 班作品にするための取り組みや構成を考え、班での演技の完成・達成に向けて見通しを持って取り組み、技の練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・班で構成を考え、協力しながら合わせる練習をする。 ・自分達の採点演技基準を話し合い、それに合わせて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班でのオリジナルな構成を大切に、班の作品という意識をしっかりと持ち、助け合って練習する。 ・技の特性や難度などを十分に理解し、自分たちの基準をつくり練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班での作品にするため、班内でできばえを確認し、活動意欲を高めるように声かけをする。「習得」「探究」 	
	ねらい3 班演技を他班と見せ合い、お互いにアドバイスしあいながら、発表会に向けた練習ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2班、3,4班、5,6班、7,8班、9,10班をペア班とし、ペア班で見せ合い、アドバイスを交換する。 ・3つの班でのミニ発表会を行い、アドバイスしあう。 ・ペア班でビデオを取り合い、協力して班練習を行う。 ・発表会に向けての練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア班で、お互いの良いところや工夫点などをアドバイスしあい、より班の作品としての工夫やまとまりのある作品にするための工夫をする。 ・3つの班で発表会に向けてお互いにアドバイスをしあい、班の演技をさらに高めあえるようにする。 ・ビデオで自分たちの演技を確認し、さらに発表会に向けて練習をする。 ・発表会に向けてアドバイスを受けた所を中心にあわす練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア班で協力して、見せ合いや話し合い活動がスムーズに出来るように見守り、適切にアドバイス活動が来ている時にはしっかりと褒めるようにする。「習得」「探究」 ・もらったアドバイスを素直に聞き、さらに自分たちで工夫出来るように支援する。「探究」 ・発表会に向けて、規準表をもとにアドバイスしあえるように見守り、できていないときはアドバイスを与える。「探究」 ・ビデオ撮影や映像確認がスムーズにしているか巡視し、自己評価をしつかりとさせるようにする。「習得」「探究」 ・発表会リハーサルのもりで何度も練習するように支援する。「習得」「探究」 	[関] [思] [知] [技]
	まとめ 15・16時間	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会 ・自己評価・他者評価 ・発表会のビデオを身ながらの振り返り ・自己評価 ・感想カードへの記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの基準に従い、採点をし合う。 ・発表会をビデオに治め、それを見ることにより基準や工夫点、演技を振り返る。 ・単元の振り返りや学びを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採点基準や構成の工夫ポイント、演技者や見る人のマナーなどを確認し、きちんと採点することを指導する。 ・自分達の演技を自分の目で見ることにより、基準や工夫ポイントなどを確認し、学習の振り返りをさせるようにする。 ・単元の振り返りをさせ、学び取ったことを整理させる。 	[関] [思] [知] [技]

⑤ 本時の目標

- ・班演技を他班と見せ合うことにより、お互いの良いところやそれぞれの班の工夫点、またさらに工夫した方がもっとよくなる所などをアドバイスし合うことができる。
- ・アドバイスをもらったところを生かし、さらに自分達で工夫し、レベルの高い作品を創り、呼吸を合わせて演技して楽しむ。
- ・班で安全に留意して、協力して練習をする。

⑥ 本時の展開

	学 習 活 動	教 師 の 支 援
は じ め	<ul style="list-style-type: none"> ・班での場づくり ・集合 ・めあて確認 ・準備運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で協力して、今日のめあてに即し、安全な場づくりができているか観察、点検をする。 ・出欠確認、健康観察、服装などを点検、確認する。 ・本時のめあてを確認し、1時間の活動内容を描かせる。 ・班ごとにそれぞれ準備運動をし、安全確認と班のめあて、各自のめあてを確認するように指示する。
な	<p>ねらい3 班演技を他班と見せ合い、お互いにアドバイスしあいながら、発表会に向けた練習ができるようにする。</p> <p>○班での練習や個人の練習 個人の練習や、前時に工夫したところや新たに創ったところを合わす練習する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>予想される生徒の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長の号令に合わせて全員で最初から通して練習に取り組む。 ・揃っていないところや変えたところを重点的に、協力して練習する。 ・他班の練習を見に行き、自班や自分の練習に取り組めていない。 ・話し合いに時間をとられている ・場の工夫をしながら技の練習をしている </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場所に速やかに移動し、班や個人の課題に向けて練習ができているか観察をする。出来ていない場合はもう一度この時間のめあてや、班、個人のめあてを確認させ、練習方法のアドバイスを与える。 ・班で協力して取り組んでいることを褒める。 ・ある程度部分練習をしたら通し練習もするように指示する。 ・自班のめあてを確認させ、本時のめあてや流れをもう一度確認させ、この1時間の大切さを理解させる。 ・班ノートを確認することで、前時の学びや確認事項をもう一度整理させ、本時の練習計画をよみがえらせる。
か	<p>○ペア班でビデオを取り合い、アドバイスし合う 変化させた演技を互いに見合い、アドバイスしあい、また自分たちの目でもビデオで確認して課題を見つけ出す。</p> <p>○アドバイスをもらった部分練習や、出来ていない技の練習、また合わせる練習などをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いにビデオを取り合い、演技の感想や良くなったところなどをアドバイスし合えるようにする。 ・取り合ったビデオをみながら自分たちでも出来具合を確認させる。 ・呼吸の合っていないところやできていないところの教え合いを班で協力してするように支援する。

ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・班会議 本時の活動やがんばりを振り返り、 班のめあてや練習方法を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスを貰ったところや、自分たちの目で確認した演技を振り返り、今日の頑張りを認め合わせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議 班員の頑張りや、ペア班からのアドバイス を認め合い、疑問や工夫の仕方について学び合う ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・できているところとできていないところを考えさせ、次の計画をつくるように指示する。 ・各班の疑問や悩み、頑張りや工夫の方法などを出し合わせ、みんなの学びとなるようにする。

⑦ 結果と考察

去年は、個人的な種目としての器械運動として、マット運動と跳び箱運動両方の基礎的な技（規定技）や発展的な技（自由技）を行った。自分達で場の工夫や補助をしながら、また、自分の目で自分の学びを振り返る事のできる分解写真など工夫を取り入れながら、基礎的な学び合い（習得サイクル）を行った。そこから、技の組み立てや器械運動の楽しさ、場の工夫の仕方や技のコツをつかむことができた。そこで今年度は、さらに器械運動の発展系として、自分や自分達の学びを追究し、同じグループや、クラス、学年全体へその成果や取り組みを発信するための工夫として、生活班4人でのグループ器械運動を行った。個人レベルでマット運動か、跳び箱運動のいずれかを選択させ、さらに4人で深めるための集団マット、集団跳び箱を意識した「マッ跳び運動」（マット運動と、跳び箱運動を組み合わせたオリジナルなもの）と題し、思いやりを大切にしたいグループ器械運動を実施した。個人ではなく4人というグループでの作品を組み立て、構成するためには、技のきまりや合わせるための工夫など細かい部分を話し合い、確認しあひながらすすめた。技のきまりについては、A群より1つ、B群より2つ、C群より1つを班での話し合

（マット運動と跳び箱運動の技群）

A群 マット運動 <ul style="list-style-type: none"> ・前転連続 ・後転連続 ・開脚前転 ・開脚後転 ・片足伸膝前転 ・片足伸膝後転 ・跳び前転 	跳び箱運動 <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び ・閉脚跳び
B群 マット運動 <ul style="list-style-type: none"> ・倒立前転 ・側方倒立回転 ・前方倒立回転 ・後転倒立 ・ロングアート ・A群の連続 	跳び箱運動 <ul style="list-style-type: none"> ・台上前転 ・仰向け跳び ・倒立前転跳び ・A群の連続
C群 マット運動 <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドスプリング ・ヘッドスプリング ・ネックスプリング ・前方宙返り ・バック転 ・B群の連続 	跳び箱運動 <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドスプリング ・ヘッドスプリング ・ネックスプリング ・側方倒立回転跳び ・B群の連続

いで決め、さらに個の特性をだすためのソロの技を一人ずつ選び、技の難度やスピード、高さや方向、強弱などを考えながら構成することとした。この段階においても、班内でお互いの個性を尊重しながら技を決めていく話し合いが行われていた。

また、練習していく中で、班内だけでの教え合いは今までと同じように行い、場の工夫や補助などの支援、助け合いを行う事はもちろんだか、他班との教え合いや認め合いの場を意図的に計画した。ビデオカメラを各班に1台ずつ設置し、自分たちの演技を自由に自分たちで撮影し、自分たちの目で直に見て確認することにより、実際に出来ていないところや、さらに工夫しなければならないところ、また、合わせるための手だてなど、自分の課題や班の課題などを追究し、班会議において自分の言葉で発信する力を養い、そしてそれらを班で協力して解決しながら、グループとしての課題はどんなところなのか、さらに工夫すればどうよくなるのか、またできているところなどを確認しながら学び合う事を第一段階に考えた。自分たちの班での課題をあぶり出し、自分たちだけで練習しながら、さらに第二段階として、くじで別れた3つの班で、それぞれに今できているところまでを発表し合うための、ミニ発表会を企画した。今自分達の班が悩んだり困ったりしているところや、自分達だけの工夫などを模造紙に書き、演技発表の前にそれを発表し（他班に発信）、演技終了後に

(各班で使える器具)

- ・ロングマット 2枚
- ・短マット 4枚
- ・跳び箱 2台
- ・ロイター 4枚

そのことについて話し合った。

今まで他班を見るゆとりのなかった事もあり、お互いに刺激をうけながら確実に次の段階に高まる手応を感じた。次に第三段階として、ペア班（1班と2班、3班と4班、5班と6班、7班と8班、9班と10班）にビデオ撮影をしてもらい、演技を見てもらうことにより、自分たちの課題解決の手だてを教え合った。また、出来ているところを認め合ったり、もっと工夫すればさらに良くなるなど話をし合うことで次の段階の追求、発信の場を設けた。2つの班で互いに教え合い、励まし合うことにより、お互いの連帯意識とさらに強い刺激を受け、技能の高まりはもちろんだが、オリジナルな組み合わせが各班に生まれた。

また、合わせるための工夫として、手拍子やメトロノーム、かけ声やアイコンタクトなど班独自の工夫が生まれたが、全体会議で「音楽が欲しい」と言う声上がり、体育館全体にアップテンポでリズムカルな曲をずっと流し、曲を使わなくても、曲のリズムに合わせても自由に使えるようにした。そのことにより、気持ちがリラックスし、みんなのテンションが上がり、技のメリハリがでてきたように思う。さらにまとめの段階で、各班による発表会を行った。構成（5点満点）と実施（10点満点）の審判に別れ、採点基準をみんなで話し合い、基準に照らし合いながら、それぞれ自分たちによる採点をしながら競技会形式で行った。

(班オリジナルな演技の例)

(競技会の採点基準)

実施基準（10点満点）

5人の審判で採点し、平均をとる。

持ち点は6点から

- ・全員が大きな動作で動いている。
- ・4人がまとまっている。
- ・合わせる工夫が感じられる。
- ・きちんとした態度で演技をしている。

出来ている項目につき、1点ずつ足していく。

その他技の基準については、べつに技の完成を高めるための基準表があり、それに基づいて、できていないと感じるたびに正を書いている。

たとえば膝がまがっているなど。

平均に0.2を掛けて、点数の平均から引く。

構成点（5点満点）

5人の審判で採点し、平均をとる。

持ち点は2点から

- ・オリジナルな構成がある。
- ・盛り上がる見せ場の工夫がある。
- ・強弱、高低、リズム、方向などの工夫がある。

出来ている項目につき、1点ずつ足していく

マット運動

跳び前転の組み合わせ

- ・2人で時間差で両方から跳び前転を行い上を跳び越す。
- ・2人で同時に両方から跳び前転を行い1人は三点倒立で待っていて、もう1人は足の間を跳び前転で跳ぶ。

跳び箱運動

- ・跳び箱を縦に2台セットし、両方から時間差で跳び超え、はじめに跳んだ者が馬になり跳び箱と跳び箱の間で構え、その馬を跳び越えて、次の跳び箱を跳ぶ。

マット運動と跳び箱運動の合体

- ・マットで前転連続をしている上を跳び箱で跳び越す。

その他リズムを変えたり、高い技と低い技の組み合わせの工夫、技の強弱や場の使い方工夫もいろいろありました。

生徒の点数 実施10点満点 教師10点満点の計20点

構成 5点満点 教師 5点満点 の計10点

合計30点満点で採点

また、発表会で各クラスの1位に選ばれた班の演技を学年集会で披露し、他クラスでの工夫や頑張りを学び合う場も計画した。時間や場の関係で、単元が終わってすぐにそういう場が実施できなかったため、練習不足というデメリットもあったが、他クラスから選ばれた見応えのある演技から、学び取るものがたくさんあり、拍手が随所でわきおこった。

(班ノートの書き込み例 1)

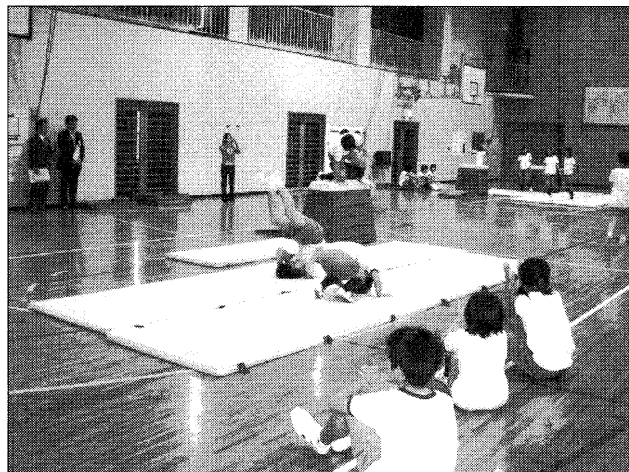
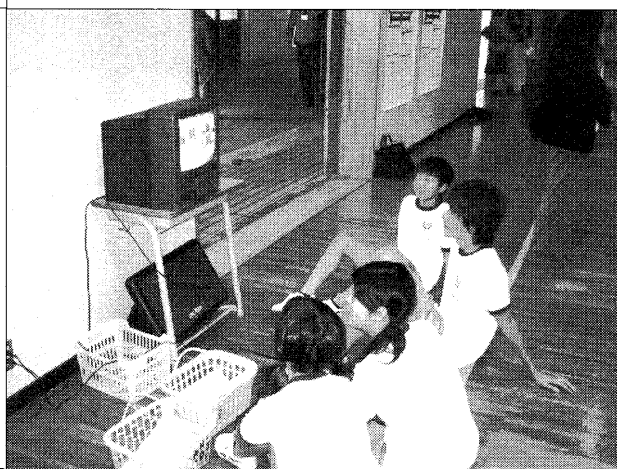
(班ノートの書き込み例 2)

— 89 —



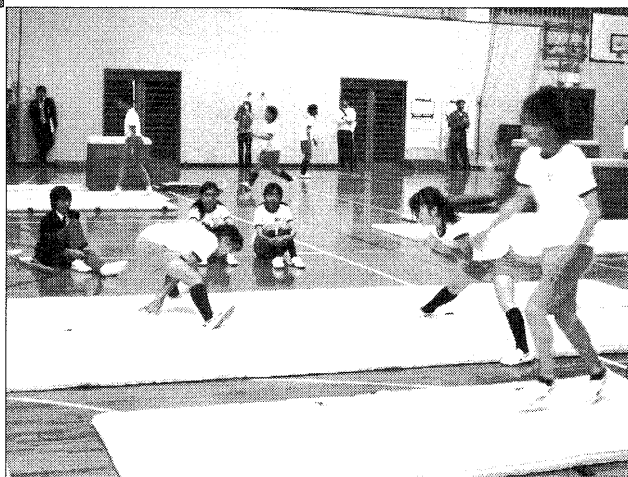
ペア班との学び合い
(他班との教え合い)

自班での学び合い
(ビデオでの演技確認)



ペア班との学び合い
(他班との教え合い)

ペア班との学び合い
(他班との教え合い)



(他班との見せ合いカード書き込み例1)

他班との見せ合いカード


A組

①班から②班へ

よろしくお願いします。

私達の班の技

1番 開脚前転	2番 前空翻→開脚前転	3番 前空翻→開脚前転
4番 前空翻→開脚前転	5番 前空翻→開脚前転	6番 前空翻→開脚前転
7番 前空翻→開脚前転	8番 前空翻→開脚前転	9番 前空翻→開脚前転



自分達の見てほしいところ

- ・開脚前転は合っているか。
- ・空翻は足が曲がっているか。
- ・開脚前転の足が曲がっているか。(右足と左足)

自分達の班が悩んでいることや教えてほしいこと

- ・ハンドスプリングで、足が曲がって、マシメス。(右足と左足)
- ・空翻は足が曲がっているか。(右足と左足)
- ・前空翻は足が曲がっているか。(右足と左足)

(他班との見せ合いカード書き込み例2)

他班との見せ合いカード


A組

②班から①班へ

よろしくお願いします。

私達の班の技

1番 開脚前転	2番 前空翻→開脚前転	3番 前空翻→開脚前転
4番 前空翻→開脚前転	5番 前空翻→開脚前転	6番 前空翻→開脚前転
7番 前空翻→開脚前転	8番 前空翻→開脚前転	9番 前空翻→開脚前転



自分達の見てほしいところ

- ・開脚前転は合っているか。
- ・空翻は足が曲がっているか。
- ・空翻は足が曲がっているか。
- ・1番の開脚前転は2番あけてもらえるか。

自分達の班が悩んでいることや教えてほしいこと

- ・空翻は足が曲がっているか。
- ・空翻は足が曲がっているか。
- ・ハンドスプリングで、足が曲がって、マシメス。(右足と左足)

(ミニ発表会を終えてカード書き込み例1)

ミニ発表会を終えて

1班

私達の演技順

1番 開脚前転	2番 前空翻→開脚前転
3番 前空翻→開脚前転	4番 前空翻→開脚前転
5番 前空翻→開脚前転	6番 前空翻→開脚前転
7番 前空翻→開脚前転	8番 前空翻→開脚前転

よかったところ

- ・開脚前転は合っている。
- ・空翻は足が曲がっている。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。

他班からもらったアドバイス

問題点

- ・空翻は足が曲がっている。
- ・開脚前転は合っている。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。

自分達の課題

- ・空翻は足が曲がっている。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。

どう努力するか

- ・他班の上まなところを見て、それをまねする。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。

(ミニ発表会を終えてカード書き込み例2)

ミニ発表会を終えて

2班

私達の演技順

1番 開脚前転	2番 前空翻→開脚前転
3番 前空翻→開脚前転	4番 前空翻→開脚前転
5番 前空翻→開脚前転	6番 前空翻→開脚前転
7番 前空翻→開脚前転	8番 前空翻→開脚前転

よかったところ

- ・開脚前転は合っている。
- ・空翻は足が曲がっている。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。
- ・1人1人の技がきれいだった。

他班からもらったアドバイス

問題点

- ・空翻は足が曲がっている。
- ・開脚前転は合っている。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。
- ・1人1人の技がきれいだった。

自分達の課題

- ・空翻は足が曲がっている。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。
- ・1人1人の技がきれいだった。

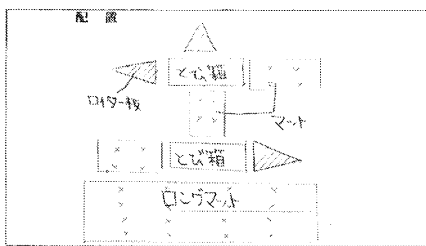
どう努力するか

- ・空翻は足が曲がっている。
- ・マシメス(右足と左足)で、マシメス。
- ・1人1人の技がきれいだった。

(班の演技構成図例 1)

班演技の構想図

2 年 A 組 7 班

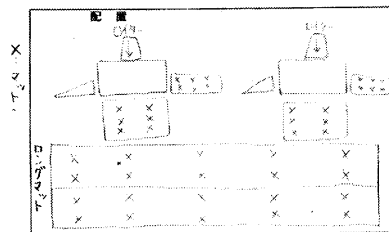


- ① 前転連続と開脚とを
はじめに食料が前転として、マートの端までとまらば橋と石塔が同時に開脚とを
してその後得津が開脚とをします。
- ② 台上前転と倒立前転
先には前転と岩橋と得津をして、その後石塔が台上前転、鳥打が倒立
前転と逆方向かする。
- ③ 仰向けとび、前方橋並回転
先は仰向けとびを石塔と得津をして、その後岩橋が仰向けとび、鳥打が
前方橋並回転とを合せて一組にする。
- ④ ハンドスプリング、ハンドスプリング
先は得津がハンドスプリング、鳥打がハンドスプリングを合せていて、後で岩
橋、石塔がハンドスプリングと逆方向から同時にする。
- ⑤ 前方橋並回転、(見付)
ローマートとわつとる。
- ⑥ 仰向けとび (得津)
普通にローマ一板とび箱を使います。
- ⑦ ハンドスプリング (岩橋)
ローマ一板とび箱を使ってまわるとぶ。
- ⑧ ハンドスプリング (石塔)
ローマ一板とび箱を使ってまわるとぶ。

(班の演技構成図例2)

班演技の構想図

2 年 A 組 6 班



- ①B群

②B群

③A群

④A群

⑤B群

⑥A群

⑦B群

⑧A群

⑨B群

⑩A群

⑪B群

⑫A群

⑬B群

⑭A群

⑮B群

⑯A群

⑰B群

⑱A群

⑲B群

⑳A群

㉑B群

㉒A群

㉓B群

㉔A群

㉕B群

㉖A群

㉗B群

㉘A群

㉙B群

㉚A群

㉛B群

㉜A群

㉝B群

㉞A群

㉟B群

㊱A群

㊲B群

㊳A群

㊴B群

㊵A群

㊶B群

㊷A群

㊸B群

㊹A群

㊺B群

㊻A群

㊼B群

㊽A群

㊾B群

㊿A群

㉑B群

㉒A群

㉓B群

㉔A群

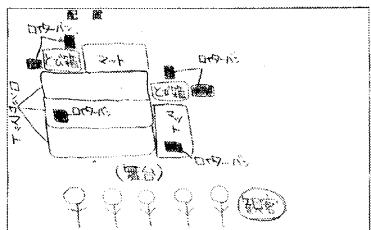
㉕B群

㉖A群

(班の演技構成図例 3)

班演技の構想図

2 年 A 組 10 班



- [illegible]

(個人ノート書き込み例1)

「マツ跳び運動」

1月 7日 曜日 3 期	1 時間目	2	3
今日の練習は ステージ 1			
本時のめあて			
原のよみか 文のよみか 目的のよみか 練習のよみか	練習のよみか 練習のよみか 練習のよみか 練習のよみか		
練習計画と導の工夫			
5分 準備、めあて確認 原の個人練習 15分 原の個人練習で練習する 原の個人練習 15分 導の個人練習 練習の個人練習 練習の個人練習 練習の個人練習	練習計画と導の工夫 練習計画と導の工夫 練習計画と導の工夫 練習計画と導の工夫 練習計画と導の工夫 練習計画と導の工夫 練習計画と導の工夫 練習計画と導の工夫		
感想、反省、質問など			
今日、私は...			

(個人ノートの書き込み例2)

[illegible]

(個人ノート書き込み例3)

[illegible]

(ニ) 発表会採点用紙 1)

ミニ発表会

採点用紙

(6) 班 氏名

☆班の演技

1班 2班 3班 4班 5班 6班 7班 8班

1番

前々前々 前々前々

2番

前々前々 前々前々

3番

前々前々前々 前々前々

4番

前々前々前々 前々前々

5番

前々前々前々前々

6番

前々前々前々前々

7番

前々前々前々前々

8番

前々前々前々前々

9番

前々前々前々前々

10番

前々前々前々前々

実施点

10 / 10

その数に見えろ
とろっている
→ 一歩離れていても
名前にあっていい
後者盛ってみたら

構成点

4 / 5

裏での工夫がある
オビジナルの構成がある
→ 変化がある
特色点と盛むら

班のゆるみなど、わかることほけの所あった

問題点

足がまがっていた。

よかったところ

演技のよさ
前々前々前々前々
前々前々前々前々
前々前々前々前々

(ニニ発表会採点用紙2)

三二発表会

採点用紙

(6) 班 氏 名

☆ 班 の 演 技

1 番 2 番 3 番 4 番 5 番 6 番 7 番 8 番

1 番
前転連続 開脚

3 番
前大側倒転 662V2V

5 番
1/4前大側倒転

7 番
ハンドスプリング

2 番
倒立前転 前転

4 番
ハンドスプリング ハンドスプリング

6 番
1/4 前転

8 番
V1 ハンドスプリング

1 2 3 4 5 6 7 8

実演点

9 / 10

その技に見える
そろっている
→ 一連の動きが揃っている
場所においている
滑り回りをみながら

構成点

4 / 5

組での工夫がある
オリジナルな構成がある
→ 変化がある
持ち込みの動き

観客のいるところ、わかるような位置がなかった。

問題点

足が曲がっていた。

よかったところ

・お箱の二つがきれいにそろっていた。
・マントとおび箱もきれいに

このマッ跳び運動で学び取ったこと（生徒の感想より）

マッ跳び運動を通して、仲間で協力することの大切さを知りました。仲間同士が協力し合わなければ技も完成に向かって進まないし、合わす楽しさもわからないと思いました。班が協力でき、技を合わせられた時の喜びを感じました。また、技が進歩したとき、教えてもらった人に感謝する心もできました。協力する時も思いやりをいつももっていないくってはならないことも学べ、仲間って大事ななと思いました。

できなかった技ができるようになったという達成感はもちろん、今回はマッ跳び運動ということで、マットと跳び箱の一体化を楽しむことができ、班全員の息がピッタリ合ったときの喜びや達成感を何よりも強く感じ、学ぶことができました。また、それまでの練習では、お互いに厳しい事を言い合ったかもしれませんが、思い合い支え合い、手の貸し合いをするなどの班員の優しさを改めて実感しました。とても楽しかったです。

班の仲間や友達や他班からの欠点などを教えてもらい改善の参考につながった。仲間と学び合い、教え合う大切さ、楽しさを味わえ学べた。努力の大切さ、仲間の大切さ、できたときの楽しみを改めて学び撮ることができた。そしてお互いに深め合う事の大切さも学べた。

1年生の器械運動では個人の技を磨いていくもので、仲間と技を合わしたりしなかったのも、あまり悩んだりしなかった。しかし、今回は仲間と技を合わし、自分の技も磨いていかなければならなかったのも大変だった。思うように班もまとまらず不安になった。でも合わせ技は工夫がいっぱいあり、オリジナルなむ構成ができた。また、仲間に見て貰うことで技の進歩がすごくあつたし、自分が仲間の技を見ることで、「ここを気をつけよう」とか「私もここをこうしよう」などと良い点や悪い点を知り、自分の技をみなおすことができた。

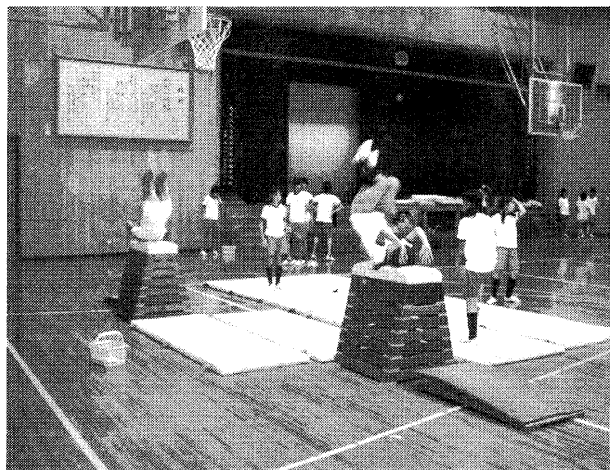
はじめは技を合わせる事がとっても難しかったけれど、何回も練習していると、班のみんなと呼吸が合ってきて、技を合わせるできるようになってきた。自分一人が勝手な事をしていたも、班の一つの演技にならないことが分かった。この授業で技を合わす楽しさ（合わすためにリズムに乗ったり、合図を送るなどの工夫）を味わえた。

マッ跳び運動での学びは、同じ班の人と協力することでした。自分一人だけで、マットの練習をやっても意味がなく、班の子と一緒に技を教え合い、技を合わせ、そして跳び箱とマットがコラボレーションし、マッ跳び運動が成立するんだなと学びました。場の工夫など、班の子たちと考えるのは楽しかったです。2つの班と、合同で練習をした時も普段は自分たちがやっているのは見えないけど、教えてもらうことで学んだ事もありました。合わせるのは難しかったけど、みんなでやるのは楽しかったです。

自分ができない技なら、友達に教えてもらい、他の人ができない技なら自分が教える。班で合っていない所は話合う。そして直していく。それぞれが感じた事を言う。班で協力して、技ができるようになったり、教え合いで自分達の作品を高めていったりできました。他班とも話し合いをして高め合うこともできました。班がまとまらなかったりいろいろな問題はありましたが、技を合わせる楽しさを味わえました。

今回のマッ跳び運動で学んだ事は、仲間とのチームプレーについてです。一人でも一つの技ができなければみんなでその技について教え合ったり、それでもムリな時は、技のレベルを下げたりと一つの技をみんなができるようにするための助け合いの大切さが学べました。

（授業風景）



実践2 必修教科3年生

授業者 谷 興 治
吉 田 恵 介

① 題 材 球技（異学年合同）「サッカーとバスケットボールの選択」

～成功させよう！僕らのスポーツイベント！！～

② 題材について

生涯スポーツに統合・一環化される中学校体育は、スポーツ実践の一時期であるとともに、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現する資質や能力の基礎を培うことを目的としている。そのため、日々の授業においては、運動・スポーツの特性に触れることを目標におきながら、自ら課題を見つけ、その課題解決のために練習等を工夫しながら1時間の授業を自ら計画（デザイン）する力を身につけさせたいと考えている。

本単元である「球技」は、生徒に人気のある運動領域の1つである。今回、球技選択として取り上げる「バスケットボール」と「サッカー」は、共に2つのチームが同一コート内で入り乱れ、1個のボールをめぐる一定時間交互に攻め合い、得点を競い合うゴール型の特徴を持つ種目である。チームワークの高まりによっては、普段以上の能力を発揮することも期待できるので、授業においては、生徒一人ひとりが互いの存在を認め合い、それぞれの良さを生かして互いに教え合ったり、支え合ったりしながら自発的・自主的に学習を進めることができるよう声をかけ合って練習やゲームに取り組めるようにしたい。

また、本単元では、選択制授業の拡充を図るべく、選択した球技種目を同学年の活動から異学年の活動（たてわりの活動）へと拡大し、さらに、単元のまとめとしてスポーツイベント（球技大会）の開催へと発展させたいと考えている。子どもたちには、異学年合同による「たてわり」の授業の中で、学年による年齢の違いや男女の違い、個人の技能差等を互いの個性（特徴）として認め合いながら、それぞれの存在がチームを創り上げていく上で欠くことのできないものとして捉えられるように、チーム内、また、チームを超えての【かかわり】を大切にしていきたいと考えている。特に、3年生には、いろいろな個性を持った異質集団の中で、自分にあったスポーツへのかかわり方を学び、高校や生涯スポーツにつながる活動にしたい。また、授業やグループ会議を積極的に進めていくリーダーシップを身につけることも期待したい。1年生には、中学生になって初めての球技単元を3年生にリードしてもらいながら、自分の良さを生かして、授業を進めていく体育学習の学び方や進め方を身につけさせたいと考えている。

また、スポーツイベント（球技大会）の開催に向けて、大会ルールの設定や対戦相手の決定、審判の割り当てなども自分達で考えるなど、球技大会の企画・運営を通して、自らのスポーツへのかかわり方を考え、追求していく姿勢も身につけさせたいと考えている。そして、これらの活動を通して自分の可能性を発見させ、個性を伸張させたい。（『個性を拓く学び』）。また、単元の途中で、それぞれのチームの課題や練習方法を大学生に相談する時間を設定したり、周囲の人々と協調しながら子どもたち自らが球技大会の企画・運営を行うこと等を通して、自らのスポーツへのかかわり方を考え、追求していく姿勢を身につけさせたい（『社会につなぐ学び』）。

授業においては、ゲームで出てきた個人やチームの課題を練習し（「習得サイクル」）、身につけた力でさらに質の高いゲームを行う（「探究サイクル」）というように、二つのサイクルが有機的に関連し合うことによって、生徒が伸びていけるような学習にしたいと考えている。

③ 学習目標と評価規準

学習の目標	バスケットボールやサッカーの特性を理解し、ゲームの中から自分や自分のチームの問題点を明らかにし、その課題の解決をめざして練習を工夫すると共に、対戦するチームに対応した作戦を立て、自チームの良さを生かしながらゲームを楽しむことができる。
評価規準	
関心・意欲 ・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間の存在を大切にし、自チームの良さを生かしながらゲームを楽しむことができる。 ・ チームにおける自分の役割を自覚して責任を果たしたり、互いに教えあったりしながら進んで練習やゲームを行うことができる。 ・ 安全に留意しながら、仲間と協力して準備や後片付けをすることができる。 ・ 球技大会の運営に意欲的に取り組み、ブロックの応援を熱心に行うことができる。

思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の自分やチームの課題は何かを見つけることができる。 ・自分やチームの課題にあった練習方法や作戦を考え、工夫することができる。 ・ルールを工夫したり、作戦を立てたりするなど、ゲームの仕方を工夫することができる。 ・球技大会の組み合わせや審判の割り振り等を考え、準備を進めることができる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・チームや自分の能力に適した課題の練習やゲームを通して集団の技能や個人的技能を高めることができる。 ・チームで考えた作戦を生かしたゲームを行うことができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールやサッカーの特性、学習の進め方、技術の構造について理解を深めることができる。 ・バスケットボールやサッカーのルール、審判の方法を理解することができる。

④ 学習計画 全15時間

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
オリエンテーション		ねらい① みんなが楽しめるルールを決め、チームやルールに慣れながら総当たりのゲームを楽しむ				ねらい② 同じチームと繰り返し対戦して、個人技能や集団技能を高めながらゲームを楽しむ				ねらい③ 自分たちのチームの良さを生かし相手チームに応じた作戦を立ててゲームを楽しむ				ね ら い	⇒ 1・3年 合同 スポーツ イベント (球技大会)
チーム編成															

④ 学習計画（単元構成表） 全15時間

時	学習過程	学習の中心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	観点
は じ め	オリエンテーション チーム編成	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールやサッカーの特性や学習のねらい、道すじを理解する。 ・単元全体の内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ・学習ノートの使い方、ゲームの行い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや道すじを明確にし、課題解決の方法や仲間とのかかわり方を考えさせる。『習得』 ・学習資料を用い、ゲームを構造的に理解させる。『習得』 <div> 第1回リーダー会議 <ul style="list-style-type: none"> ○みんなが楽しめるルールの調整 ○練習コートや総当たり戦の順序決定 ○ウォーミングアップや活動の手順についての確認 </div>	【関】 【思】 【知】
な か	ねらい① みんなが楽しめるルールを決め、チームやルールに慣れながら総当たりのゲームを楽しむ。 【総当たりゲーム】 ねらい② 同じチームと繰り返し対戦して、個人技能や集団技能を高めながらゲームを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを楽しみながら、それぞれのメンバーの特徴をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人およびチームの課題を明確にさせる。『習得』 ・課題達成に向けて、場の工夫や練習方法、技術の要点について助言する。『習得』『探求』 <div> 第2回リーダー会議 <ul style="list-style-type: none"> ○チーム編成の最終調整 ○ねらい②対抗戦でのルール調整 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・チームに応じた課題や練習方法が計画されているか確認する。『習得』『探求』 ・生徒が自発的に課題達成に向けて活動できるよう、学習資料を準備する。『習得』『探求』 	【関】 【思】 【技】 【知】 【関】

		<p>【力を高める対抗戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自チームの特徴を生かした作戦やそれをゲームで生かすための練習を計画する。 <p>【コーチに聞こう!!】 (1時間)</p> <p>ねらい③ 自分たちのチームの良さを生かし相手チームに応じた作戦を立ててゲームを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと繰り返し対戦することで自チームや相手チームの特徴をつかむ。 ・互いにアドバイスをすることでチームとしての成長を確認する。 <p>ねらい②の中の1時間を使い、それぞれのチームの課題をまとめ、大学生に指導してもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・審判や試合の運営が上手くいっているかを確認する。『習得』『探求』 ・チームを越えてアドバイスをするように働きかけ、互いに高め合いながらチームの成長を確かめ合えるようにする。『習得』『探求』 ・チームごとに課題や教えて欲しいことをカードにまとめさせ、それをもとに、大学生と指導内容について協議する。『探求』 ・自己の能力やチームの状況に応じた課題や相手チームに応じた作戦が立てられているか確認する。『探求』 ・記録用紙を用い、ゲームの記録をとらせる。『習得』『探求』 <p>第3回リーダー会議</p> <p>○各チームのリーダー（キャプテン・コーチ）に、各クラスの体育委員と中央委員を加え、スポーツイベント（球技大会）の実施要項を作成する。</p>	<p>【思】</p> <p>【技】</p> <p>【知】</p> <p>【関】</p> <p>【思】</p> <p>【技】</p> <p>【知】</p>
		<p>【高めた力を確かめるリーグ戦】</p> <p>F1リーグ：3チーム F2リーグ：3チーム (2時間の結果で入れ替え)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム分析を行い、相手チームに応じた作戦を立てその作戦をゲームで実践できるように練習計画を立てる。 ・チームで立てた作戦を実践しながらリーグ戦を行う。 		
まとめ	15	単元のまとめ	学習を振り返り、学習活動全体のまとめと反省を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を互いに認め合い、評価できるように、評価プリントを用意する。『習得』『探求』 ・スポーツイベント（球技大会）開催に向けて、必要なこと、考えておくべきことをまとめる。『探求』 	<p>【関】</p> <p>【思】</p> <p>【知】</p>

スポーツイベント（球技大会）

<p>スポーツイベント（球技大会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック対抗の球技大会（【サッカー】【バスケットボール】）を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会ルールの説明、開会式、閉会式の司会進行、対戦表の確認、審判の割り当てなど、球技大会を自分達で運営することができるように支援を行う。 ・ブロック優勝を目指し、一致団結して応援ができるよう声かけを行う。
--	---

⑤ 本時の目標

- ・互いの存在を認め合い、自チームの良さを生かしながらゲームを楽しむ。
- ・安全に留意し、審判やゲームの運営ができるようにする。

⑥ 本時の展開

	学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ・コート、用具の準備を行う。 ・全体集合、あいさつを行う。 ・チームごとに本時のめあてを確認し、学習の見通しを持つ。 ・準備運動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して準備できているかを観察し、安全を確認、点検する。 ・それぞれのチームや個人の課題に応じためあてや練習方法が計画されているか確認する。 ・準備運動が適切に行われているか確認する。 	

	<p>ねらい②</p> <p>自チームの特徴を生かした作戦を立ててゲームを楽しむ</p>	
<p>な</p>	<p>チームごとに計画している練習を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゲーム（5分×3）</p> <p>【力を高める対抗戦】</p> </div> <p>特別ルールの確認（バスケットボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子の得点は3点 ・バスケット部の得点は1点 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生徒の予測される反応</p> <p>攻撃した直後のディフェンスやリバウンドの大切さを強調し、攻守の切り替えを速く行うように伝える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じた練習が計画通りに進んでいるか観察する。できていないチームには、資料の提示やアドバイスをを行う。 ・チームで考えた作戦を確認し、各自が役割を果たせるように声かけを行う。 ・よいプレーは積極的に賞賛する。 ・自分たちで決めた特別ルールを生かすように声かけを行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>反応に対して</p> <p>攻撃した直後のディフェンスやリバウンドの大切さを強調し、攻守の切り替えを速く行うように伝える。</p> </div>
<p>か</p>	<p>特別ルールの確認（サッカー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子の得点は2点 ・パスが4本以上つながって得点すれば2点 ・ヘディングの得点は3点 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生徒の予測される反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・止まっていてパスが回らない。 ・パスかドリブルの状況判断が遅く、ボールを取られてしまう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・よいプレーは積極的に賞賛する。 ・自分たちで決めた特別ルールを生かすように声かけを行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>反応に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空いているスペースを見つけて動くことで、パスコースができることを伝える。 ・ボールをもらう前に周りを見ておくことの大切さを伝える。 </div>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会議を行い、個人やチームの活動を振り返る。 ・全体会議で互いに良かったところや問題点などを話し合う。 ・次時への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが本時の学習を振り返り、次時への課題が持てるよう声かけを行う。 ・個人、またはチームでがんばったところを進んで発表できる雰囲気をつくり、みんなで認め合うことができるようにする。

⑦ 結果と考察

本単元は、生徒一人ひとりが自主的・主体的に運動にかかわる学習活動を成立させるために、選択した球技種目を同学年の活動から異学年の活動（たてわりの活動）へと拡大して計画したが、このことが、チームの課題や個人の課題達成に向けての活動に良い影響を及ぼしたように思う。個人の技能差に加え、男女の違い、学年による年齢の違い等、様々な違いがチームの中に存在する中で、子ども達は、最初は互いに遠慮し、コミュニケーションもなかなか上手く取ることができなかったが、時間を重ねるにつれ、それぞれの役割を自覚し、その役割を精一杯果たすことで、次第にチームが一つにまとまっていった。そして、その中で子ども達は、互いの存在がチームにとって、欠くことのできないものとして捉えることができるようになった。（三年生がキャプテンを引き受け、チームをまとめる役割を担ったり、グループ会議を積極的に進めたりするなどリーダーシップを発揮すると共に、一年生が活動しやすいように声をかける等、チーム内の良い雰囲気づくりという面でも活躍した。また、一年生のバスケットボール部員がコーチ役として、キャプテンと相談しながら練習計画を立てたりする姿も見られるようになった。）これは、単元を計画するにあたって期待した、様々な違いを、互いの個性（特徴）として認め合いながら、チームを創り上げていくという【かかわりを大切にした生涯スポーツにつながる授業】に応えるものであった。単元開始前に採ったアンケートでは、異学年合同で行う授業について、不安に思う意見が多かったが、単元終了

後の感想では、「私はバスケットをするのが初めてで、ルールも何も知りませんでした。初めての総当たりゲームのときは、一人でバスケットをやっているような形になるのがほとんどだったけど、班会議で一人ひとりの意見を聞いていくと、自分とは違った意見やアドバイスが聞けたり、教えてもらったりしたおかげで、個人とチーム全体が同じように上達していったと感じています。」「私の班はキャプテンがいつも細かなアドバイスをくれます。みんながみんなバスケット経験者じゃないけれど、試合を重ねるごとに少しずつ上手になっているという感覚と、だんだんとわいてくるやる気が、そのまま試合中や結果の点数として表れてきました。今まで練習してきて、一人ひとりに自信がついてきたと思うし、バスケットを通してチームワークの大切さと協力して試合に勝ったときの喜びを知りました。」「異学年合同の授業はすごく楽しく、みんなで成長できたと思います。できることならずっとこの授業を続けていきたい。このままだと、みんなでもっとすごい試合ができると思います。」「僕はこの単元で、お互いに成長し、高め合うことを学んだと思います。僕が三年生になっても、三年生の先輩が僕たちに優しく接してくれたように、僕たちも一年生に優しく接しながら色々教えてあげたいと思います。」とあるように、この異学年合同の授業を通して、三年生は一年生と同じチームになることで、一年生は三年生と同じチームになることで、同学年の活動以上に、技能面や仲間とのかかわり方、授業への取り組み方等の面で、成長することができた。

このように、異学年合同の授業では、様々な違いがあるからこそ、チームの課題や個人の課題について考えることができ、互いの存在を認め合うことで、学習を深めることができたと言える。（その背景には、一人ひとりの存在がチームにとっては欠くことのできないものであるという認識とチームのみんなが互いに認められ、支えられているという安心感が存在する。）

また、単元終了後に、スポーツイベント（球技大会）の開催を計画したことで、スポーツイベント（球技大会）に向けて、チームの課題を把握し、その課題達成のためにはどのような練習が必要か、また、チームの課題を達成するために個人の課題はどこにあるのかを考え、色々な意見を出し合いながら、一人ひとりが課題達成にむけて意欲的に取り組むことができた。（今回の単元では、「コーチに聞こう！」という時間を設定し、各チームがゲームの課題や練習計画の悩みについてカードにまとめ、それぞれの課題に応じて大学生にアドバイスをしてもらった授業も計画したが、この取り組みも子どもたちの活動を活性化させる一つの要因となった。）

スポーツイベント（球技大会）で優勝するという目標を持つことが、チームとして、また個人としての意欲的な活動を引き出したといえる。実際にスポーツイベント（球技大会）の日は、チームの優勝を目指して全力でプレーすることに加え、ブロックの優勝を目指し、同じブロックのチームに声をからして声援を送る姿が印象的であった。また、決勝戦は全員が見守る中、一進一退の攻防が続き、白熱したゲーム展開となった。試合終了後には、それぞれのチームの健闘をたたえ、惜しめない拍手が送られるなど、自分達で計画し、運営を行ったスポーツイベント（球技大会）を大成功で終えることができた。

本単元である異学年合同による「球技選択」の授業は、色々な個性を持った異質集団の中で共に活動することにより、自分にあったスポーツへのかかわり方を学び、生徒一人ひとりに自分の可能性を発見させ、個性を伸張させたい（『個性を拓く学び』）という思いと、周囲の人々と協調しながら、社会の一員として主体的に判断し、適切に行動できる生徒を育てていきたい（『社会につなぐ学び』）という願いからスタートした。その中で、異年齢集団での活動と共に、大会ルールの設定や対戦相手の決定、審判の割り当ても自分達で考えるスポーツイベント（球技大会）を単元終了後に計画したことが、生徒一人ひとりの自主的・主体的な活動を引き出すだけでなく、技能の深まりや特性に触れる学習の深まりにまで発展していったといえる。また、仲間同士の活発なコミュニケーションにもつながっていった。

このように、異学年集団による学習は、様々な違い（個性）を持った仲間達と共にスポーツを楽しむことができる力を育成するだけでなく、互いの学びを活性化し、学習を深めることができる可能性を示すものであった。また、スポーツイベント（球技大会）を自分達で計画し、運営することで、実際にプレーするだけではないスポーツへのかかわり方を学び、追求していくことも経験することができた。これらは、子どもたち一人ひとりが自主的・主体的に運動にかかわり、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を身につける体育授業を創っていく上で、今後の研究に大きな示唆を与えてくれるものであった。

しかし、このような異学年合同の授業を実施していくためには、時間割をどのように計画していくのか（学校全体の協力が必要である）、学年間の系統やつながりをどう捉えるか（中学三年間の計画も含めて）等、乗り越えなければならない課題も多く、今後も保健体育科としての大きな課題として引き続き研究していきたい。

6班

チームの得意		守備
各々、自分が得意な技を 3人、それぞれバスケは長けてる		守備は全体的に苦。 が、守備がうまい。 攻めて守備が得意な人は多い。
ポジション	氏名	各自の得意
①		得意なボールをパスする。
②		キックの役目をしりあう。
③		パスは得意で、ボールを運ぶ。
④		もう一人、得意な技、白鳥の技。
⑤		ボールを運ぶ。
⑥		
⑦		得意なボールをパスする。

【コーチに聞こう!!!】

(サッカー・バスケットボール)

アドバイスしてもらった場面

め、お兄ちゃんにたくさん教えてもらいました。
 コーチの人は「ナイス シュート!」とか「おしい!」とか
 声をかけてくれたのでとてもうれしくなりました。
 だから私も頑張る子に積極的に声をかけようと思いました。
 シュートの決定率を上げるには、あらいをさだめることと、
 相手の守備の子との対峙に勝つことが大事だと分かりました。
 今日はありがとうございました。

【コーチに聞こう!!!】 アドバイスカード

6班

(サッカー・バスケットボール)

ゲームの場面

パスを正確におしる。攻めと守め。
 守め時は全員で守る。攻め時は全員で攻める。

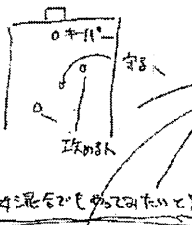
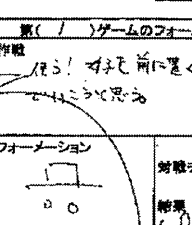
教えてもらいたいこと (練習内容も書ける)

敵に当たらないようにする。あらい
 守り、ボール運ぶ。

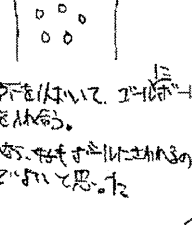
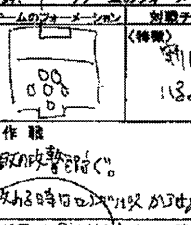
コーチから

相手のポジションを見て、パスをもらう。パスを
 もらいやすい位置まで動いておこう。
 たてまわす...
 相手の横からボールを取りに来たのなら、あらいは
 前アスバースでボールをもらう。
 9で...
 ななめから取りに来たのなら、下ア、2、パスを
 受けておこう。

【対抗戦】

11月14日水曜日 6班 9時開演 (記録表)	
本時のめあて(どんなゲームをしたい)	審判
11人が活躍できるようにする。	得点
練習メニュー (具体的に書く)	ゲーム分析
1人前、1人前、1人前	
	第(1)ゲームのフォーメーションと作戦 作戦 1人前、1人前、1人前 フォーメーション 
ゲームを振り返って 良かったこと	第(2)ゲームのフォーメーションと作戦
1人前、1人前、1人前	作戦 1人前、1人前、1人前 フォーメーション 1人前、1人前、1人前
改善すべきこと	第(3)ゲームのフォーメーションと作戦
1人前、1人前、1人前	作戦 1人前、1人前、1人前 フォーメーション 1人前、1人前、1人前
がんばった人	結果 (0)対(0) 勝ち点(0)

【リーグ戦】

11月14日水曜日 6班 9時開演 (記録表)	
本時のめあて(どんなゲームをしたい)	審判
11人が活躍できるようにする。	得点
練習メニュー (具体的に書く)	ゲーム分析(1)班
1人前、1人前、1人前	ゲーム分析(2)班
	第(1)ゲームのフォーメーションと作戦 作戦 1人前、1人前、1人前 フォーメーション 
ゲームを振り返って 良かったこと	第(2)ゲームのフォーメーションと作戦
1人前、1人前、1人前	作戦 1人前、1人前、1人前 フォーメーション 1人前、1人前、1人前
改善すべきこと	第(3)ゲームのフォーメーションと作戦
1人前、1人前、1人前	作戦 1人前、1人前、1人前 フォーメーション 1人前、1人前、1人前
がんばった人	結果 (0)対(0) 勝ち点(0)

球技選択 (バスケットボール)

3班

チームの特徴		() 班
(攻撃) できるのは早くせめる。 スピードをあげる。		(守備) 全員で守る。
ゼッケン	氏名	各自の課題
①		得点をめぐる。
②		もっと積極的に行く。
③		自分でドリブルやシュートできるようにする。
④		もっと速く。
⑤		得点をめぐる。
⑥		ディフェンス強化!!

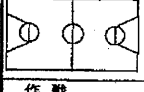

【コーチに聞こう!!】

A 班 (サッカー・バスケットボール)

アドバイスしてもらった感想

ドリブルをしながら、シュートを入れた練習をしました。
まず、ドリブルは、手の平を、ボールにのせたり、右手きつたり
するんじゃないかと、少し手の平は丸くするから手で、手の平で受け
とめるようにすると、ぶねとぶねにドリブルが出来ます。
聞いたので、やってみると、安定したドリブルができました。
あとは、ドリブルをして片手でシュートを入れたとき、なりのように
入るんじゃないかと、下から、ボールをすくうようにかけると
入りやすいと教えてもらって、やってみました。今日の試合ではそれいかに
ドリブルシュートはできずにはいけず、普通にシュートが入ったので良かったです。

【リーグ戦】

11月20日 曜日	時間目 (記録者)	審判
本時のめあて(どんなゲームをする)	審判	審判
ハーフマニール	得点	得点
練習メニュー (具体的に書こう)	ゲーム分析()班	ゲーム分析()班
・ハーフマニール (全員でやる)	ゲーム分析()班	ゲーム分析()班
・シュート練習	第()ゲームのフォーメーションと作戦	第()ゲームのフォーメーションと作戦
	自チームのフォーメーション (特製)	対戦チーム()班
		ドリブルからのパス
	作戦	作戦
	一人一人からマニールをつくる	一人一人からマニールをつくる
	結果 ()対() 勝ち点()	結果 ()対() 勝ち点()
	がんばった人	がんばった人
	第()ゲームのフォーメーションと作戦	第()ゲームのフォーメーションと作戦
	自チームのフォーメーション (特製)	対戦チーム()班
		パス
	作戦	作戦
	ゲームを振り返って良かったこと	ゲームを振り返って良かったこと
	みんなよく頑張っていたとておめでとう	みんなよく頑張っていたとておめでとう
	改善すべきこと	改善すべきこと
	怪しい	怪しい
	結果 ()対() 勝ち点()	結果 ()対() 勝ち点()
	がんばった人	がんばった人
	累積勝敗 ()勝()敗()分 勝ち点()	累積勝敗 ()勝()敗()分 勝ち点()

【コーチに聞こう!!】 アドバイスカード

A 班 3 班 (サッカー・バスケットボール)

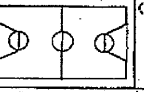
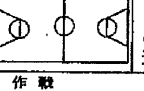
チームの課題

- ・得点をめぐる
- ・ディフェンスをもっと速く

覚えてもらいたいこと (練習内容も含む)

- ・ディフェンスのやり方 (基礎から)
- ・シュートのコツ

【リーグ戦】 (本時)

11月20日 曜日	時間目 (記録者)	審判
本時のめあて(どんなゲームをする)	審判	審判
ハーフマニール	得点	得点
練習メニュー (具体的に書こう)	ゲーム分析()班	ゲーム分析()班
・3対3	ゲーム分析()班	ゲーム分析()班
・マークする子を決めて、しっかりその子についていく。ボールをカットできるように!!	第()ゲームのフォーメーションと作戦	第()ゲームのフォーメーションと作戦
・シュート練習	自チームのフォーメーション (特製)	対戦チーム()班
・それぞれ自分の守る位置を決める		マークしてはカット
	作戦	作戦
	マークを2人でマークする。	マークを2人でマークする。
	結果 ()対() 勝ち点()	結果 ()対() 勝ち点()
	がんばった人	がんばった人
	第()ゲームのフォーメーションと作戦	第()ゲームのフォーメーションと作戦
	自チームのフォーメーション (特製)	対戦チーム()班
		マークしてはカット
	作戦	作戦
	ゴール下のエリアにパスを回さないようにカットをする。	ゴール下のエリアにパスを回さないようにカットをする。
	ゲームを振り返って良かったこと	ゲームを振り返って良かったこと
	みんなよく頑張っていたとておめでとう	みんなよく頑張っていたとておめでとう
	改善すべきこと	改善すべきこと
	怪しい	怪しい
	結果 ()対() 勝ち点()	結果 ()対() 勝ち点()
	がんばった人	がんばった人
	累積勝敗 ()勝()敗()分 勝ち点()	累積勝敗 ()勝()敗()分 勝ち点()

4班

チームの特徴		(4)班
(攻撃) → 正面からシュート。 → 右から足でパス☆ → 左から → パスでパス → クリーンキープを繰り返す		(守備) 1. 2人→2人ずつ。 2. 1人にパスがつかない。 3. パスを止める。パスを止める。
ゼッケン	氏名	名前の意味
①		シュートとれる。
②		うごきまわる。
③		声出して外に出る指導者
④		シュートとれる。
⑤		いっしょにやる。
⑥		動いてくる。
⑦		

【コークに勝とう!!】

組 班 (サッカー・バスケットボール)

アドバイスしてもらった感想

僕達は、ドリブルシュートのやり方が分からなかった時、お手本を見せてくれて分かりやすく説明してくれて、みんなもちっと理解したみたいで、よかったです。
できれば、毎回来てほしいと思います。

【ユーチに聞こう！】 アドバイスカード

A 組 4 班 (サッカー・バスケットボール)

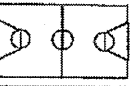
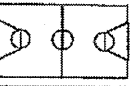
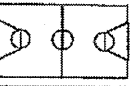
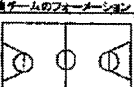
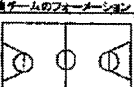
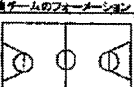
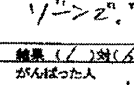
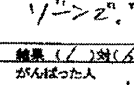
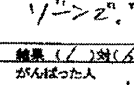
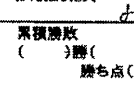
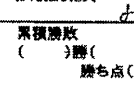
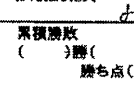
千一六の雄飛

- ・ディフェンスを怠っている時が多い。
- ・自分一人でいって取れるキーがある。
- ・パスを正確にする。

教えてもらいたいこと (練習内容も含む)

シュト.
ハズとXに与る練習
正確なハズ練習

【リーグ戦】

11月20日火曜日 祝	時間目 (記録書)								
本日のためて(こんなゲームをする) F-1に残れよう 練習メニュー (具体的に書く) 6対3は リンゼめろ!!! (サインゼめろ!!!)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">審判</th> </tr> <tr> <td>審判 得点</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>ゲーム分析()班</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>ゲーム分析()班</td> <td>_____</td> </tr> </table>	審判		審判 得点	_____	ゲーム分析()班	_____	ゲーム分析()班	_____
審判									
審判 得点	_____								
ゲーム分析()班	_____								
ゲーム分析()班	_____								
3対3 → 昨日のつぎ	<table border="1"> <tr> <td>第()ゲームのフォーメーションと作戦</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>第1ゲームのフォーメーション</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>  </td> <td> (特徴) サインゼ フォーメーション </td> </tr> <tr> <td>作戦</td> <td></td> </tr> </table>	第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班	第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班		(特徴) サインゼ フォーメーション	作戦	
第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班								
第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班								
	(特徴) サインゼ フォーメーション								
作戦									
ゲームを繰り返して 良かったこと 2対1! チムキを 高めた。もう一歩 リンゼめろ!!! リンゼめろ!!!	<table border="1"> <tr> <td>第()ゲームのフォーメーションと作戦</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>第1ゲームのフォーメーション</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>  </td> <td> (特徴) サインゼ フォーメーション </td> </tr> <tr> <td>作戦</td> <td></td> </tr> </table>	第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班	第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班		(特徴) サインゼ フォーメーション	作戦	
第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班								
第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班								
	(特徴) サインゼ フォーメーション								
作戦									
改善すべきこと ちゃんとバウンド リンゼめろ!!!	<table border="1"> <tr> <td>第()ゲームのフォーメーションと作戦</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>第1ゲームのフォーメーション</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>  </td> <td> (特徴) サインゼ フォーメーション </td> </tr> <tr> <td>作戦</td> <td></td> </tr> </table>	第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班	第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班		(特徴) サインゼ フォーメーション	作戦	
第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班								
第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班								
	(特徴) サインゼ フォーメーション								
作戦									
ちゃんとバウンド リンゼめろ!!!	<table border="1"> <tr> <td>第()ゲームのフォーメーションと作戦</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>第1ゲームのフォーメーション</td> <td>対戦チーム()班</td> </tr> <tr> <td>  </td> <td> (特徴) サインゼ フォーメーション </td> </tr> <tr> <td>作戦</td> <td></td> </tr> </table>	第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班	第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班		(特徴) サインゼ フォーメーション	作戦	
第()ゲームのフォーメーションと作戦	対戦チーム()班								
第1ゲームのフォーメーション	対戦チーム()班								
	(特徴) サインゼ フォーメーション								
作戦									

【リーグ戦】(本時)

月	日	曜日	時間目	記録者
<p>本時のめあて(どんなゲームをする)</p> <p>F-1の頂点になるぞ!!</p> <p>練習メニュー (具体的に書こう)</p> <p>3対3</p> <p>ゾーンでも練習。</p> <p>→昨日のフック</p>				
<p>審判</p> <p>得点</p> <p>ゲーム分析()座</p> <p>ゲーム分析()座</p>				
<p>第()ゲームのフォーメーションと作戦</p> <p>自チームのフォーメーション</p> <p>対戦チーム()座</p> <p>(特徴)</p> <p>か 1人でめくる。</p>				
<p>作戦</p> <p>や $Y \rightarrow Z$ だぞ!!</p>				
<p>結果()対() 勝ち点()</p> <p>がんばった人</p>				
<p>第()ゲームのフォーメーションと作戦</p> <p>自チームのフォーメーション</p> <p>対戦チーム()座</p> <p>(特徴)</p> <p>5番と2番のバズ pl()なふ()だぞ。</p>				
<p>作戦</p> <p>バズをカットする!</p> <p>とて 5番と2番!!!</p>				
<p>改善すべきこと</p>				
<p>結果()対() 勝ち点()</p> <p>がんばった人</p>				
<p>果敢勝負</p> <p>()勝()敗()分</p> <p>勝ち点()</p>				

バスケットボール スポーツ!! Aブロック

TEAMの特徴

- くん...ボールの配分後、シュートを正確に打つ。
- こ...ロングパスを前衛で待つ、シュートする。
- くー...すばやく動き、ボールを取りに行く。
- さん...パス、ドリブル、シュート共に正確で面白い。
- くん...敵からボールを取りに行く。
- さん...パスをいって、近くの味方にパスする。
- さん...ドリブルを取り、シュートする。

「パスやドリブルは正確なチーム。」

2班★

- ・リバウンドは、井上を中心にとる!!
- ・パスを正確に回す。
- 自分たちのコートに選ぶ!!
- ・さんや南谷さんが積極的に動く!!
- ・くんが体力たいてプレーする。
- ・たまにすごいシュートが入る!!

3班★

- ・パスがまわっている!!
- ・皆、仲が良く!!
- ・パスカットがすごい!!
- ・声がでている。
- ・色んなパスがまわっている!!

Basket Ball!

4班★

- | ☆特徴☆ | ◎得意技◎ | 弱点☆ |
|------------|--------------|--------------|
| ・パスがすごい。 | ・パスが正確で早い。 | ・シュートが正確でない。 |
| ・ドリブルが早い。 | ・ドリブルが正確で早い。 | ・パスが正確でない。 |
| ・パスが正確で早い。 | ・パスが正確で早い。 | ・パスが正確でない。 |
| ・パスが正確で早い。 | ・パスが正確で早い。 | ・パスが正確でない。 |

絶対勝つぞ、HOPRESS

- ・ゲーム中が面白い。
- ・シュートが正確で早い。
- ・個性が強い。
- ・動きが早い。
- ・パスが正確で早い。

5班★

- ・チーム全体が楽しんでいる。
- ・応援がすごい!!
- ・ゲーム中が面白い。
- ・いつも笑顔!!
- ・チームワークがすごい!!

6班★

バスケットボール 自己評価表 (対抗戦を終えて)

年 組 番 氏名 ()

- あなたは単元を始める前と比べてバスケットボールが好きになってきましたか?
(すごく好きになってきた 好きになってきた あまり好きになれない 好きになれない)
- あなたはバスケットボールの授業が楽しいですか?
(楽しい どちらかといえば楽しい どちらかといえば楽しくない 楽しくない)

- 単元の始めにたてた自分のめあて達成に近づいていますか?
(達成まであと少し 近づいている 近づいていない)
- めあてを意識し、練習やゲームに取り組んでいますか?
(できている どちらかといえばできている どちらかといえばできていない できていない)
- チームで協力して、一生懸命プレーできていますか?
(できている どちらかといえばできている どちらかといえばできていない できていない)
- 仲間の良いプレーや頑張りを積極的に認めることができていますか?
(できている どちらかといえばできている どちらかといえばできていない できていない)
- 対抗戦を終えて、これまでに自分が良くなった所やリーグ戦への意気込みを書きましょう。
「最初はバスケットボールが苦手だったけど、練習を繰り返して、今ではバスケットボールが大好きになりました。これからも練習を頑張りたいです。」
- 自分の良い所やがんばっている所、みんなに見てもらいたい所を自由に(たくさん)書きましょう。
「今日はバスケットボールの試合がありました。みんなが一生懸命プレーしていました。自分もがんばってプレーすることができました。これからも練習を頑張りたいです。」

バスケットボール 自己評価表 (対抗戦を終えて)

年 組 番 氏名 ()

- あなたは単元を始める前と比べてバスケットボールが好きになってきましたか?
(すごく好きになってきた 好きになってきた あまり好きになれない 好きになれない)
- あなたはバスケットボールの授業が楽しいですか?
(楽しい どちらかといえば楽しい どちらかといえば楽しくない 楽しくない)

- 単元の始めにたてた自分のめあて達成に近づいていますか?
(達成まであと少し 近づいている 近づいていない)
- めあてを意識し、練習やゲームに取り組んでいますか?
(できている どちらかといえばできている どちらかといえばできていない できていない)
- チームで協力して、一生懸命プレーできていますか?
(できている どちらかといえばできている どちらかといえばできていない できていない)
- 仲間の良いプレーや頑張りを積極的に認めることができていますか?
(できている どちらかといえばできている どちらかといえばできていない できていない)
- 対抗戦を終えて、これまでに自分が良くなった所やリーグ戦への意気込みを書きましょう。
「最初はバスケットボールが苦手だったけど、練習を繰り返して、今ではバスケットボールが大好きになりました。これからも練習を頑張りたいです。」
- 自分の良い所やがんばっている所、みんなに見てもらいたい所を自由に(たくさん)書きましょう。
「今日はバスケットボールの試合がありました。みんなが一生懸命プレーしていました。自分もがんばってプレーすることができました。これからも練習を頑張りたいです。」

せりふ点なので、シュートもできるだけ決めたいと思っています。

10月25日 木曜日 氏名	
チームのめあてを達成するための自分のめあて 動きまわって、声を出してパスをもらってシュートをする	
自己評価Ⅰ (5・4・3・2・1)	
今日の授業は楽しかった	5
めあてを意識し、意欲的に練習やゲームに取り組めた	5
めあてを達成することができた	5
互いに教え合い、協力して取り組めた	5
忘れ物なく取り組めた	5
班で決めた自分の役割を果たすことができた	5
審判やゲーム分析に積極的に取り組めた	4
安全を確認して運動できた	5
合計	39
自己評価Ⅱ (できた○ もう少し△ できなかった×)	
パスをもらえる位置に動けた	○
ドリブルでボールを進められた	○
味方に正確にパスができた	○
ストップ・ターンが正確にできた	△
シュートを決めることができた	○
相手の攻撃を防ぐことができた	○
声をかけ合うことができた	○
ゲームでの役割を果たすことができた	○
感想 初めは試合で少し緊張はしたが、チームのめあてを思い出し、パスをもらってシュートにつなげることができました。でも、自分にはまだボールを止めるのが苦手です。試合を見て、ボールを止めるのが上手な選手を見て、自分も練習でボールを止める練習をしたいと思います。	

10月30日 火曜日 氏名	
チームのめあてを達成するための自分のめあて シュートを決めるようにする	
自己評価Ⅰ (5・4・3・2・1)	
今日の授業は楽しかった	5
めあてを意識し、意欲的に練習やゲームに取り組めた	5
めあてを達成することができた	4
互いに教え合い、協力して取り組めた	4
忘れ物なく取り組めた	5
班で決めた自分の役割を果たすことができた	4
審判やゲーム分析に積極的に取り組めた	4
安全を確認して運動できた	5
合計	36
自己評価Ⅱ (できた○ もう少し△ できなかった×)	
パスをもらえる位置に動けた	○
ドリブルでボールを進められた	○
味方に正確にパスができた	△
ストップ・ターンが正確にできた	×
シュートを決めることができた	○
相手の攻撃を防ぐことができた	△
声をかけ合うことができた	○
ゲームでの役割を果たすことができた	△
感想 今日の授業で、ボールを止める練習をしました。ボールを止めるのは難しいですが、練習でボールを止める練習をしたいと思います。また、シュートを決める練習もしたいと思います。	

11月 日 曜日 氏名	
チームのめあてを達成するための自分のめあて パスをもらってドリブルでパスをして攻めて、相手がボールを止めるときは、マークマンをする。	
自己評価Ⅰ (5・4・3・2・1)	
今日の授業は楽しかった	5
めあてを意識し、意欲的に練習やゲームに取り組めた	5
めあてを達成することができた	4
互いに教え合い、協力して取り組めた	5
忘れ物なく取り組めた	5
班で決めた自分の役割を果たすことができた	5
審判やゲーム分析に積極的に取り組めた	5
安全を確認して運動できた	5
合計	39
自己評価Ⅱ (できた○ もう少し△ できなかった×)	
パスをもらえる位置に動けた	○
ドリブルでボールを進められた	○
味方に正確にパスができた	○
ストップ・ターンが正確にできた	△
シュートを決めることができた	○
相手の攻撃を防ぐことができた	△
声をかけ合うことができた	○
ゲームでの役割を果たすことができた	○
感想 今日、めあてをほとんど達成することができました。今日はチーム全体で攻める練習をしました。パスをもらってドリブルでパスをして攻めて、相手がボールを止めるときは、マークマンをする。この練習をしたいと思います。また、シュートを決める練習もしたいと思います。	

月 日 曜日 氏名	
チームのめあてを達成するための自分のめあて ディフェンスを強化して、守りを固める。	
自己評価Ⅰ (5・4・3・2・1)	
今日の授業は楽しかった	4
めあてを意識し、意欲的に練習やゲームに取り組めた	4
めあてを達成することができた	3
互いに教え合い、協力して取り組めた	4
忘れ物なく取り組めた	5
班で決めた自分の役割を果たすことができた	3
審判やゲーム分析に積極的に取り組めた	5
安全を確認して運動できた	5
合計	33
自己評価Ⅱ (できた○ もう少し△ できなかった×)	
パスをもらえる位置に動けた	△
ドリブルでボールを進められた	○
味方に正確にパスができた	△
ストップ・ターンが正確にできた	○
シュートを決めることができた	×
相手の攻撃を防ぐことができた	×
声をかけ合うことができた	△
ゲームでの役割を果たすことができた	×
感想 やりだしのディフェンスが全然できていない。ドリブルでボールを進められたり、パスをもらってドリブルでパスをして攻めて、相手がボールを止めるときは、マークマンをする。この練習をしたいと思います。また、シュートを決める練習もしたいと思います。	

【単元を終えての感想】

1年 組 番 氏名

私は基本的に運動が嫌いだったので今回バスケットで三年生の先輩の足を引っ張らないように頑張った。バスケの時バスケをしていたものの久しぶりなので自信がなかったけれど先輩達はいかにやさしく教えてくれて安心しました。

初めの方の試合はシュートもたくさんあるチームがあったけれど除々にみんなはマナーを強化していきだしたので後の方試合はシュートに困難はなかったけれどみんなは懸命に協力して今日は1試合目 8-4で勝ちました。2試合目は相手の固さから圧倒されて0-8で負けました。この試合から見るに、練習を頑張りたいと思いました。

けれど練習はチームはよかったです。今日チームワークNo.1に選ばれました。それに今日は合形の中に常に入ることができました。少しマナーができていて困らなくて今まで先輩に教えた事を一つ一つ思い出してきて合形のやり方をもう一回やりました。

シュートはなかなか決まらなくてシュートを打つことさえできなかったけれどチームのみんながシュートを助けてくれて本当にチームワークがよかったと思います。

バスケをしてたさんのことを学びました。バスケの技術もこうだげし中間の大切さや結束力の必要など身に沁み感じています。

これを学ぶことができたのはチームのみんなのおかげだと思います。今日バスケが終りだけれどこの気持ちとチームワークを忘れずに球技大会に向けて一生懸命頑張りたいと思います。

バスケをして学んだことを忘れずに何事にもまっすぐやるように思いました。



【単元を終えての感想】

3年 B 組 番 氏名



今日が最後で今まで一番自分なりに良い試合ができたと思います。ディフェンスもちゃんとできたし、シュートも3回いれました。チームワークもよくなってみんながパスをもらう位置に移動できてボールをもらうことができて、ボールをどうとる意識もすごくできてきたと思います。

ディフェンスも最初と比べて全然ちがってとっさになってもまけないでボールに近づいてリブをリブをカットしたり、パスボールをジャンプしてとてはいたり、ほんとに一番うまくなったのはディフェンスだと思います。声もだんだん出てきてみんながかわたまたりもしないし、走ってボールをあつかうから最初と比べて試合終了後はすごく息があがっていました。

勝てて勝つという意識が高まってきたからチームワークもよくなったと思います。あとはリバウンドがとれたと思います。失敗したらすぐに相手にとられたり、あててパスを正確な所にまわしてなかったりしたのが原因だったと思います。

私がバスケの授業で楽しいと思ったり好きになった理由はやはりディフェンスが成功したり、みんながボールを運んでシュートできたときにみんな喜んだり「ファイン！」とかの声をかけてくれたりすることです。今日のバスケでは一番好きな言葉が「ファイン！」をもらったりしてうれしかった。良い試合でした。

嫌いなバスケも良いところをいざい知、て今は大好きになりました。チームワークNo.1の2対2のチームワークで球技大会でも勝ってみたいです。